

1.1 哲学を研究する大学院生および非一常勤職研究者が現在置かれている現状を踏まえて次の設問にお答え下さい。
 現在、大学院生および非一常勤研究者に対して、迅速に対応すべき問題は何かと思いますか。
 ★生活面・就業面

ID	自由記述内容	学会	年齢	性別
8	就職できる年齢が以前よりも高齢化しつつある	日本哲学会	30	男
16	格差・差別があるという項目に関して、近年のpositive actionについて、日哲としてはどのような立場なのでしょうか？	日本哲学会	32	男
18	アカポス以外のルートの開拓	日本哲学会	32	男
21	出身大学による就職格差	日本哲学会	33	男
41	大学の雇用形態の硬直性、大学以外の就職先がないという社会の硬直性	日本哲学会	38	男
47	ハローワークで一年ほど道德教育に関する職を探したが、見当たらなかった。	日本哲学会	39	男
59	任期付雇用・採用が、私大で悪用されている。	日本哲学会	43	男
66	きちんと、税金や社会福祉関係のお金(年金、国民健康保険)と長年払っているのに、まったく老後にかえってこない。これは研究職に限らず、非正規雇用全体の問題であり、改善されるべき。	日本哲学会	46	男
67	社会に哲学研究者の受け皿がない(就業や能力を活かす場として)	日本哲学会	47	男
88	静かな住居環境と大学	日本哲学会	57	男
90	大学以外の職業選択の可能性が低いこと	日本哲学会	58	男